

たより



夏季休業中開催の研修講座報告 1

二瓶弘行先生「国語授業づくり」講座

7月30日(月)に、筑波大学附属小学校の二瓶先生をお招きし、師範授業と講演会を行いました。当日は、約200名の方にご参加いただき、会場は熱気に満ちたものとなりました。

「物語の授業を通じて、子どもたちに『何』を『どう』教えるのか？」また、「物語の授業をどうつくるのか？」ということについて教えていただく機会となりました。

師範授業は、『世界でいちばんやかましい音』という物語を使って行われました。また、別室で、授業の様子を生中継で放映しました。



その後は、授業を受けて、『確かな読みの力を育む物語の授業づくり』という演題でお話していただきました。子どもたちに物語を自ら読み進める力を身に付けさせる授業のあり方について、「中心場面を意識して読む」・「前ばなし、あとばなしに着目する」・「クライマックス場面に着目する」・「作品の心を受け取る」ということなどを具体的に教えていただきました。

アンケートより

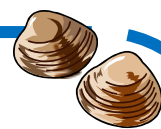
(一部抜粋・満足度 100%)

とても素晴らしい講座でした。講演だけでなく、授業をみせていただくことで、具体的にどのように子どもに伝えていけばいいのかがよくわかりました。

小学校6年間を通して、自力で読み進めていく力を系統的につけていくことの大切さを再認識することができました。物語を自力で読み進めるための指導のポイントについてよくわかりました。

二瓶先生の語り口調に引き込まれ、子どもになったように考えながら、勉強させていただきました。子どもの心をひきつける、自然と考えざるを得なくなる話ぶりに感心させられ、自分も見習いたいと思いました。

授業に取り組む子どもたちの姿もすばらしかったです。日頃の積み重ねの大切さを感じました。また、仲間の意見に対して、うなずいたり、首を傾げたりして自分の意思を示すことが、クラスの仲間づくりにもつながっていくと思いました。



伊勢市教育支援センター「NEST」より

今回は、「NEST」での体験活動について紹介します。

5月には、大湊海岸へ潮干狩りに行きました。子どもたちは、ビーチサンダルや長靴に履き替え、手には熊手とバケツを持って、海岸に向かいました。今年はたくさんとれ



ると聞いていたものの、思い思いの場所で掘り始めても一向に見つかりません。しかしその後、地元の方に穴場を教えていただき、みんなで移動。「地面にぽつぽつと穴が空いているところを掘るといいよ。」というアドバイスにしたがい、再び掘り始めると、アサリやハマグリが次から次へと面白いようにとれました。バケツが貝でいっぱいになるにつれ、子どもたちの笑顔も増え、声が明るく大きくなっていったのが印象的でした。

7月には、奥伊勢フォレストピアでパン作り体験をしました。パン作りは、自分で強力粉と水を混ぜることから始まります。水を入れた強力粉は手にべったりとくっつき、なかなか思うように混ぜる事ができません。でも子どもたちは悪戦苦闘しながらも、楽しそうにこねていました。生地を醗酵させた後、いよいよ形作りです。動物やキャラクター、自分のイニシャルなど、思い思いの形のパンができました。



焼きたてのふかふかのパンをさっそくほおばった子もいれば、お家の人と一緒に食べると言って大事そうに抱えて帰る子もいました。

また、パンが焼きあがる間に、河原で石投げをしたり、おたまじゃくしを見つけたり、裸足になって川の中に入り水をかけ合ったり、普段できない体験をたくさんすることができました。

日常の活動に加え、これらの体験活動では、通級生同士の心のふれあいが生まれ、充実感を味わい、自信をつけていく姿が見られます。

活動の中で、色々なおしゃべりをしながらみんなで過ごす時間を楽しみ、満足そうな表情で帰っていく子どもたちの姿を見ると、普段とは違う活動をする事の意義を改めて感じます。

「NEST」は、学校へ行きたい、または行かなければならないと思っても行くことができずに悩んでいる子どもたちを支援している所です。これからも、さまざまな体験活動を計画し、学校や保護者との連携を大切にしながら、子どもたちの学校復帰に向け努力していきたいと思えます。

